

投手の12秒及び、20秒ルール適用に関するガイドライン

日本リトルシニア中学硬式野球協会

2017年から採用する投手に関する「12秒以内及び、20秒ルール」の適用に関するガイドラインを以下に示す。

1. 12秒及び、20秒ルール

投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受けた後、走者がいない場合には12秒以内に、走者がいる場合には20秒以内に投球しなければならない。

違反した場合、球審は走者が塁にいない場合にはただちにボールを宣告し、走者がいる場合は警告を発することとし、同一の投手が2度繰り返したら、3度目からはその都度ボールを宣告する。塁に奉制を送球したときは、20秒の計時をリセットする。

2. 計時

計時は2塁塁審が行う。

3. 12秒ルールの適用

- ① 走者がいない場合に適用する。
- ② 12秒の計時は、投手がボールを所持し、打者がバッタースポックスに入って投手に面した時に始まり、ボールが投手の手から離れた時に終わる。

※投手が投手板についているかどうかに関係なく、打者の準備が整ったときに計時を始める。

- ③ 12秒を経過したとき(13秒になったとき)、2塁塁審はタイムを宣告し球審に12秒が経過したことを知らせる。

※2塁塁審のタイムの宣告と同時にボールデッドとなる。

※タイムの宣告にもかかわらず投手が投球したり、その投球を打者が打ったとしてもそれは無効となる。

- ④ 2塁塁審の知らせを受けた球審は、ボールを宣告する。その際、球審は投手及び、守備側の監督に12秒ルールを適用したことを告げる。